

令和7年11月 教育委員会定例会（意見交換）

開催日時：令和7年11月25日（火）

テーマ：①子ども・若者育成支援事業の取組経過及び11/8ワークショップ
報告
②小1プレクラス研究報告（桐原小学校）

【意見交換】

○教育長

毎回この場で、第3期近江八幡市教育大綱の策定に向けての意見交換をさせていただいているが、本日は2つの報告を予定している。まず1つ目は、子ども・若者育成支援事業の取組経過の報告。そして2つ目が、小1プレクラスの先進事例の研究報告である。この2つの報告を踏まえ、その後に委員の皆様については意見交換をお願いしたい。

報告1 子ども・若者育成支援事業の取組経過及び11/8ワークショップ報告

【報告】…魚見 航大氏（子ども・若者育成支援事業総合プロデューサー/
株式会社革靴をはいた猫）

報告2 小1プレクラス研究報告

【報告】…温井 奈美子氏（桐原小学校教頭）

【意見等】

○教育長

2つ連続してご報告をいただいた。1つ目の子ども・若者育成支援事業の方は、教育全体を俯瞰するニッチな部分をどのようにつなぐのか、学校が抱えている不登校問題も含めて、その出口論をどうしていくのかという点がプロジェクトの肝になると考えている。また、小1プレクラスの方は、学校教育のど真ん中の課題であり、本市が進めてきた幼保小のなめらかな接続にも関係する取組である。この2つの報告を踏まえ、新しい教育大綱、その後に基本計画を作っていくことになるので、こうしたテーマについて委員の皆様のご意見をいただければ幸いである。

○大更委員

小1 プレクラスについては今年度、東京都港区の全小学校で導入が始まったと聞いている。桐原小学校でも来年度、プレクラスを導入して子どもを見ていくということだが、それくらい余裕があるのであれば、どうして今年度、より多くの先生がそうしたかたちで子どもたちを支援できなかったのか、たまたまクラス編成の負担がすごく大きかったのか、その辺の検証が分からないので、どういうことだったのかなど。

このプレクラスの実践が思ったほど話題にならず、大きな動きになっていないということもあり、導入後に「前のクラスが良かったのに」「新しいクラスになって大変だ」というようなことを、保護者の立場から言われる方も出てくるのではないかと懸念する。そうしたことに対して、学校側の目的を明確に、きちんと説明できることが大事ではないかと思う。なかなかプレクラスが波及していない状況なので、もう少し慎重な検討や協議があってもよいのではないかと思うところもある。プレクラスを導入したけれども、色々課題が出てきたり、或いは成果の検証のために、来年度はプレクラスを止めます。けれど、やっぱり再来年度にはもう一回行いますというような、年度単位での実践ではない方がよいと思うので、一旦導入するのであれば、当然入学説明会も実施されると思うが、来年度、再来年に入学される子どもたちの保護者に対しても、地域に対してもきちんとした説明が必要であると思う。

2つ目は、以前は4月1日に学級編成が行われ、学級を固めたうえでいろんな準備を進めて入学式を迎える、それから学級づくりを行うということがあったが、プレクラスとなると、入学式から16日間はいろんな先生が関わって、子どもの状況を見たり、新しいクラス編成のために、毎日のように協議を行い、情報交換をする必要があると思う。それから、新しいクラスが5月にできたとして、そこからまた、4月初めから進めてきたのと同じことをもう一度行って、7月に1学期が終わるとなると、どれだけ先生方の労力がかかるのか。頑張ってもやりたいし、こういうことをやっていますという意欲だけでは、なかなか取り組めるものではないという気がしている。いろんな情報を調べたり勉強させてもらおうと、プレクラスを導入するメリットもあるが、課題もある訳で、その辺のところは資料を読んでいるだけでは分からないので、この場で「これは良いね」という話ができないという印象を持った。

○圓山委員

小学校へ入るからきちんと座りましょうとか、そういったことは幼稚園や保育所で習っていると思うが、実際には、そこまで徹底できていないということか。座って先生の話の話を聞くとか、朝来たときの準備とか、そういうことができない子どもが多いということか。

○幼児課

卒園前になると、そうした教育的な指導もするのだが、徹底はできていないと思う。

○教育長

本市では、金田小学校区を中心に、なめらかな接続を色々やっており、これを水平展開している。ただ、私立の園所もたくさんあり、園の形態についても、保育所であったり、認定こども園であったり、幼稚園であったりと様々であり、特に桐原小学校では、多様なところから子どもたちが集まってきている。これは私の解釈だが、これまで小学校へ行ったら一律にぴしっと並びなさい、静かにしなさいと言って、いきなり小学校教育を押し付けると、これまで園の幼児教育で自由に成長してきた子どもたちが萎縮する。幼児教育が目指すべき 10 の姿、育ててほしい 10 の姿がせつかく子どもたちの内に育っているのに、その芽を摘んでしまうようなことが小学校教育の中にはあると思う。そういう観点から、なめらかな接続をやってきた訳であり、小学校では、その 10 の姿を引き継いで育てようと迎えるが、クラスによっては集団行動が全くできない状況があるという課題かと理解している。もしかすると、幼保でもう少し、みんなで落ち着いて勉強しましょう、落ち着いて楽しみましょうということが足りないのかなと思っているが、桐原小学校の状況はどうか。

○桐原小学校

やはり入学直後は緊張感があり、小学校の教員は、子どもたちを枠にはめることを強く意識してきたし、児童はその枠にはまろうと頑張るが、なかなかはまることができなくて、しんどくなってしまうということがあり、小学校生活の大きな段差みたいなものが、新 1 年生の過度なストレスになっているという話が職員の中でも出ていた。このことから、16 日間は幼児教育に習って、どんなふうに学校生活に段階的に馴染ませていくかを研究していこうというのが、今回の大きなテーマの 1 つである。

本校の状況をお尋ねいただいたが、やはり座ることや、話を聴くことが得意でない子どもが大変多いが、これまでとあまりにも環境が違いすぎるという辺りのギャップが大きいのではないかと感じている。

○重森委員

今ご説明いただいたが、桐原小学校で、来年度からプレクラスを研究として実施されるということか。

○桐原小学校

実施するからには検証を行っていきたいと考えている。先程お話もあったが、これは難しいという判断であれば、翌年度はやめてみるということも視野

に入れて話を進めてている。

○重森委員

説明の最後に、「ご支援」ということを仰られたが、桐原小学校としては単独でも、支援がなくても、来年度プレクラスを研究として実施されるのか。

○桐原小学校

他校との協議はできていないので、本校校内の研究というかたちで考えている。

○重森委員

この資料を見せていただいた時に、やはり、大阪の守口小学校と福知山の昭和小学校も、学校単独で実施されていると思う。教育委員会は関係せずに、校長先生のお考えで取組をされていると思うのだが、桐原小学校も実施することであれば、そういうことになるのか。

○西田委員

守口小学校の資料には、保護者向けには人間関係を加味しないことを前提とした説明をしているが、校内的には加味しているという事が書かれている。この辺のアナウンス、保護者向けのアナウンスをどうしていくかということも、きちんとルール化しておく必要があるのではないかと思う。先生によって、人間関係を加味しているとポロっと言ってしまったら、大変なことになるだろうし、逆に、きちんと人間関係を加味しているということを前提として事業自体を進めていく方がいいのかどうかも含めて、実施するならやり方をきちんと詰めておいた方が良く思う。

○教育長

時間もあるので、小1プレクラスについてはここまでとさせていただいてよろしいか。次に、子ども・若者育成支援プロジェクトについて、ご意見があればお願いしたい。

○重森委員

とても分かりやすく説明をしていただいたが、この資料の写真が気になる。いろんな背景のある子どもたちの顔写真がいっぱい出ているが、この資料については、これからどのように使われるのか。

○生涯学習課

集合写真も含めて、色々な広報等に使用させていただくという事はアナウンスし、プレスに発表している子どもの写真等は直接保護者に確認し許可をい

ただいている。また、なかなかこれまで活躍できていない子どもたちの自信につながって欲しいという思いもある。資料については、校長先生を含めた説明会や、SSRの先生や教育関係者に向けて使わせていただく予定である。

○重森委員

他の11名の参加者についても、個人情報の部分はクリアしているのか。

○生涯学習課

当日報道機関の写真撮影もあるということで、許可を得ながら進めているところである。

○教育長

それは一人ひとりに許可を取ったということか。

○生涯学習課

そのとおりである。大きく扱う場合には、さらにもう一度電話で確認しながら進めていきたいと思う。

○西田委員

顔写真ということだが、本人や保護者の許可を得ていれば、例えば顔写真が載ると自分がここに載っているという自慢にもなり、そういう意味でも、本人の自信につながるのではないと思うので、私は良いかなと思う。

○教育長

いずれにしても、個人情報については慎重に確認を取りながら先に進めていく必要があると思う。

今回ワークショップに参加されたのは、学校のSSRやあすくる、マナビィへ等の相談窓口につながっている方ではなくて、つながっていない方がワークショップの広報等を見て参加して下さったということである。こうした成果も含めて、あすくるやSSRの支援員の方々にも説明をしたうえで、学校内で次のステップへ進んでいただくことに加え、学校外においてもつながっていたほうが良いと判断していただける場合があれば、そうしたつながり方も本人の選択肢として広げていただけるように、あすくるやSSRの支援員の方々との連携のあり方についても今後探っていきたいと考えている。

それでは、本日の意見交換は以上とさせていただきます。